

令和7年度文部科学省委託事業「聴覚障害教育の充実事業」

動画教材

「手話でつながる ひろがる」

「手話を学ぼう！」

教師用 活用の手引き

しゅわ
手話で
つながる ひろがる



目次

動画の活用にあたって	2
本動画を活用した教育活動例	
・パターン1「手話について知る」	4
・パターン2「手話に興味をもつ」	5
・パターン3「コミュニケーションについて考える」	6
・パターン4「自分ができていることを考える」	7
・パターン5「短時間での活用」	8

動画の活用にあたって

本資料は、令和7年度文部科学省委託事業「聴覚障害教育の充実事業」において作成した動画教材「手話でつながる ひろがる」、「手話を学ぼう!」を小・中・高等学校等の教育活動で積極的に活用いただくための教師用手引です。

これらの動画は、児童生徒等が手話に親しみ、興味・関心をもつことをねらいとしています。先生方も、ぜひ児童生徒等とともに手話に触れていただき、学級全体で興味・関心が高まることを願っています。本動画及び本手引がその一助になれば幸いです。

1. 動画のねらい

【動画①:手話でつながる ひろがる】

デフリンピックの様子や、特別支援学校（聴覚障害）の生徒と高等学校の生徒が協働している様子などの視聴を通して、手話に興味・関心をもつことをねらいとしています。

俳優による手話での会話の様子や、手話パフォーマンス甲子園（※）に合同チームとして出場した特別支援学校（聴覚障害）の生徒と高等学校の生徒へのインタビューなどを収録しています。

（※）全国の高校生が手話でダンスや歌、演劇などを行い、表現力を競い合う大会。毎年、鳥取県で開催。



[動画はこちら](#)
[（文部科学省YouTubeチャンネルにリンクします）](#)
※手話通訳付き版は[こちら](#)

<出演者>

長井 恵里 氏（俳優）

那須 映里 氏（俳優）

愛媛県立松山聾学校の生徒

済美平成中等教育学校の生徒



【動画②:手話を学ぼう!】

手話に触れたことのない児童生徒等が、手話を知り、手話に親しむことを目的に、4つのパートで構成された手話実演動画です。

日常生活や学校で使われる身近な手話を俳優や、東京2025デフリンピックのメダリストが実演した動画を収録しています。



[再生リストはこちら](#)
[（文部科学省YouTubeチャンネルにリンクします）](#)

<パート・出演者>

I. あいさつ

那須 映里 氏（俳優）

II. 感情表現

山田 真樹 氏（アスリート）

III. 学校でよく使う言葉

亀澤 理穂 氏（アスリート）

IV. おぼえていると便利な言葉

矢ヶ部紋可 氏（アスリート）



2. 想定される活用場面

本動画は、総合的な学習の時間や道徳、特別活動、朝の会・帰りの会といった短時間の教育活動など、教育課程内外の様々な場面で活用されることを想定しています。児童生徒の発達の段階や学校の実情等を踏まえ、柔軟にご活用ください。

3. 活用に当たっての留意点

- ・ 本動画は、児童生徒等の実態や指導のねらいに応じて、いずれか一方の動画のみを活用したり、動画の一部分のみを活用したりすることも可能です。
- ・ 本動画で紹介している手話表現は一例であり、地域や学校、用いられる場面等によって表現が異なる場合もあります。
- ・ 本動画は児童生徒等が手話に興味・関心をもち、親しむことをねらいとした動画としていますが、本動画をきっかけとして、聴覚障害の特性や、聴覚障害者が使用する意思の相互伝達の方法（音声、文字、手話、指文字等）は多様であること等を理解することも重要です。

文部科学省では、聴覚障害の特性等について学ぶことのできる動画の作成を進めておりますので、今後、併せて活用いただけますと幸いです。（動画公開後、本手引において動画の概要やURL等を掲載予定です。）

関連ページ

- ・心のバリアフリーノート(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1394142.htm



- ・NISE「特別支援教育リーフ」(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

https://www.nise.go.jp/study/leaf_series/



- ※ 特に、Vol.4(多様性の理解につながる「障害理解」)、
Vol.8(聞こえにくさのある子供の理解と支援)、
Vol.25(人工内耳をつけた幼児児童生徒への支援)、
Vol.27(デフリンピックから学ぶ きこえない・きこえにくい人が安心して楽しめるスポーツの工夫)
の内容に本動画との関連性がみられます。

本動画を活用した教育活動例

本動画を活用した教育活動例を紹介します。

本項で紹介するものはあくまでも例であり、児童生徒等の発達の段階や学校の実情等を踏まえて教育活動を展開していただくようお願いします。また、ここでは小・中学校の教育活動を想定した例を示していますが、小・中学校以外の学校でも積極的に動画を活用いただければ幸いです。

パターン1「手話について知る」

① 本時のねらい

動画視聴を通して、聴覚障害者の間で手話が使われていることを知り、体験的に手話に触れる。



② 展開例

流れ	学習活動	教師の働きかけ・留意点
導入	1. デフリンピックについて知る。	○デフリンピックについて説明する。
展開	2. デフリンピックでの工夫について考える。 ・動画①(東京2025デフリンピックの部分のみ)を見る。	○「デフリンピックでは、ある工夫がなされているんだけれど何だと思う?」と問いかける。 ○動画の中から答えを見つけるように伝え、動画①を視聴する。 ○工夫として、「スターターピストルの代わりにランプの光を使って視覚的にスタートの合図を出している」ことを確認する(その上で、なぜ、こうした工夫がなされているかを問うことも考えられる)。
	3. 手話について知る。 ・動画②(パート1挨拶)を見る。 ・体験的に手話を表現する。 ・動画①(手話の会話を見てみよう!)を見る。	○デフリンピアンの中で手話が使われていたことを確認する(必要に応じて動画①を振り返る)。 ○「手話を見たことがあるかな?知っている手話があるかな?」と問いかける。 ○手話に親近感がもてるよう、日常生活の中でも、手話に近似した動作(例「OK」や「わたし」など)を使っていることに触れる。 ○「どんな手話があるのだろうか?見てみよう」と投げかけ、動画②を視聴する。その際、教師が実演者の表現を真似するなど、子供たちが楽しく模倣できる雰囲気をつくる。 ○ペアやグループなどで挨拶を交わし合う活動を設定し、実際に手話を使うようにする。 ○表現しようとする子供たちの姿勢を肯定的に評価する。 ○動画①②を視聴した上で、手話は、「顔の表情や口の形も表現手段になること」「練習すれば身に付けられる」ことなどを確認する。
まとめ	4. 振り返りをする。	○手話に触れた感想を子供たち同士で語り合う時間をとる(発達の段階に応じて感想を書いたり、各自で動画を見返したりすることも考えられる)。

パターン2 「手話に興味をもつ」

① 本時のねらい

手話の表現の成り立ちを知ったり、何を伝えようとしているかを想像したりする活動等を通して、手話に興味・関心をもつ。

② 展開例



流れ	学習活動	教師の働きかけ・留意点
導入	1. 手話について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○手話を見聞きした経験があるか問いかける。 ○知っている手話があれば全体に紹介してもらうようにする。
展開	<p>2. 手話の中には、成り立ちが分かりやすいものがあることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画②(パート1挨拶)を見る。 <p>3. 何を伝えようとしている手話なのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画①(手話の会話を見てみよう!)の無音シーンを見る。 ・何を話しているのか想像し、発表する。 ・動画①(手話の会話を見てみよう!)の続きを見る。 <p>4. 体験的に手話を表現する。</p> <p>5. 手話クイズを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「こんにちは」や「ありがとう」などの動画②の解説から、手話の中には物の形や動きに由来する手話もあることを確認する。 ○動画②パート1のみ視聴する、パート1とパート3を組み合わせさせて視聴するなど、実態に応じて工夫する。 ○無音シーンの映像を見て、何を伝えようとしているのか、手話のどの動きから想像できるのかを考えながら見るように促す。 ○その際、動画を静止したり、繰り返したりして、子供たちが手話を確認できるようにする。 ○ペア学習やグループ学習を取り入れるなど、子供たちの実態を踏まえ、学習形態を工夫する。 ○手話の動きや表情等に着目した意見など、子供たちが想像した事柄を肯定的に評価する。 ○映像の続きを見た後に、手の動きに加えて表情や口の形も大切になることを確認する。 ○手話の成り立ちや表情等を意識して表現するように促す。 ○成り立ちに関する発言や表情豊かな表現を肯定的に評価する。 ○手話一覧を配付したり、いつでも動画で確認できるよう動画の二次元コードを示したりなどする。 ○ペアやグループで手話を表現し、その意味を当てたり、成り立ちを基に表現し合ったりするクイズを設定する。 ○成り立ちを想像したり、表情、口の形に注目したりすることが、手話をより身近に感じる助けとなることを確認する。
まとめ	6. 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○「もっと手話を表現したい」「調べてみたい」「聴覚障害者とやり取りをしたい」など、手話の魅力に触れた意見を取り上げ、学級全体に共有する。

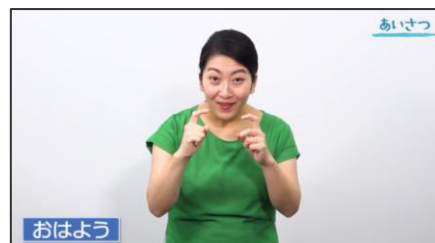
パターン3 「コミュニケーションについて考える」

(交流及び共同学習の事前指導での活用を想定)

※地域の聴覚障害者との交流も含む

① 本時のねらい

手話などを使ってコミュニケーションをとる活動を通して、実際に聴覚障害者と交流する際に積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。



② 展開例

流れ	学習活動	教師の働きかけ・留意点
導入	1. 交流及び共同学習について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○交流及び共同学習の目的を確認し、「どのような姿勢が求められるだろう」と問いかける。 ○何かを「するーされる」の関係で捉えるのではなく、協働する際に必要な考え方を確認する(必要に応じて、動画①(手話を楽しむ高校生たち)を視聴し、高校生の意見を参照する)。 ○手話や音声認識機能、筆談、ジェスチャーなどを子供の生活経験と関連付けて取り上げることで、コミュニケーションに焦点を当てるようにし、「2」につなげる(必要に応じて、手話マークや筆談マーク、耳マーク等を提示する)。
展開	2. 動画①(手話の会話を見てみよう!)を見る。 3. 動画②を見て、体験的に手話を表現する。 4. 手話などを使ってコミュニケーションをとる。 5. 動画①(手話を楽しむ高校生たち)を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ○本時では手話を取り上げることを伝え、動画視聴後には、手話の中には物の形や動きに由来するものがあることや表情、口の形も大切であることを確認する。 ○「2」で確認した事柄に留意しながら、動画②(パート1挨拶)の手話を中心に表現するよう伝える。 ○一人で表現したり、友達同士で確認し合ったりするなど学習形態を工夫する。 ○手話一覧を配付したり、いつでも動画で確認できるように動画の二次元コードを示したりなどする。 ○音声認識機能、筆談などもロールプレイを通じて取り上げるようにし、コミュニケーションをとるための様々な方法を理解できるようにする。 ○ロールプレイ後、コミュニケーションに必要な事柄を確認する。その際、「相手の顔を見ながらコミュニケーションをとること」や「手話で表現する際には表情が重要になること」などに加えて、「私たちのことを知ってもらいたい」「あなたたちのことを分かりたい」といった情意面の重要性も確認する。 ○動画の感想を発表し合う場面では、子供の発言を動画内の生徒のインタビューや「1」、「4」で確認した事柄と関連付けて整理する。
まとめ	6. 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○動画の感想をもとに、実際の交流及び共同学習に「どのような姿勢で臨むか」などを問い、学級全体で共有する。

パターン4 「自分ができていることを考える」

① 本時のねらい

共生社会の実現に向けて、多様な他者と協働するために自分ができていることを考える。

② 展開例



流れ	学習活動	教師の働きかけ・留意点
導入	1. スタートランプの役割を考える。	○スタートランプの写真を提示し、「これは何だと思えますか？何のために使われるものだと思いますか？」と問いかける。
展開	2. 動画①（東京2025デフリンピック）を見る。 3. 日常生活の中にある「みんなが過ごしやすいための工夫」を見つける。 4. 動画①（手話を楽しむ高校生たち）を見る。	○「写真が何だったのか」「なぜそれが必要なのか」を確認する。 ○スタートランプのように、環境を調整することで、バリアが軽減されることを確認する。 ○日常生活の中でどのような環境調整があるのか意見を出し合う（点字ブロック、スロープ、ピクトグラム、音の出る信号機、字幕放送など）。 ○バリアと環境調整の関係を表に整理するなどし、身の回りで行われている様々な工夫を捉えられるようにする（日常生活だけでなく、合理的配慮の提供といった社会の仕組みにも目を向けるようにすることも考えられる）。 ○「環境さえ整えば、みんなが過ごしやすい社会といえるのだろうか？」と問いかけ、物理的な環境調整に加えて、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することが多様な他者と協働する上で大切なことを確認する。さらに、対話や合意形成の必要性についても確認し、「4」の学習活動につなげる。 ○動画の視聴を通して、多様な他者と協働する上で、重要な事柄を再度確認する。その際、動画内の生徒のインタビューを取り上げる。 ○動画①の生徒と同じように感じた経験があるか尋ね、ある場合は学級全体に共有する。
まとめ	5. 「多様な他者と協働するために、自分ができていること」を考える。	○学校生活や地域生活の中で自分ができていることを考える。発達の段階に応じて、「どのような考え方が大切なのか」「それはなぜか」について話し合う。 ○子供自身の経験に引きつけて検討した意見を肯定的に評価し、学級全体に共有する。

パターン5. 短時間での活用

朝の会や帰りの会、短時間の学級活動等において実施できる、活動例を紹介します。

活動例①

活動テーマ	手話名人になろう!
活動内容	<ol style="list-style-type: none">1 動画②を視聴し、紹介された手話に親しむ。2 ペアになり、互いに手話を表現し合う。3 互いの手話表現の素敵などころを伝え合う。4 素敵などころを評価してもらったら、手話一覧(別紙1)の該当する欄にシールを貼ったり、スタンプを押したりする。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・子供が楽しみながら手話に親しむことが目的であるため、表現の誤りのみを取り上げるようなことはせず、手の形や向き、位置等に気を付けながら表現できていたら、そのできている点を肯定的に評価するようにする。・段階的に「相手の顔を見る」「表情、口の形に気を付ける」なども評価し合う視点として提示し、豊かな表現が身に付けられるようにする。・シールやスタンプが集まったら、パートごとに手話名人の賞状を渡すなど、学級の実態や発達の段階に応じて工夫する。

活動例②

活動テーマ	手話集め
活動内容	<ol style="list-style-type: none">1 動画②を視聴し、紹介された手話に親しむ。2 手話一覧(別紙1)を手元に置き、テーマに合う手話を見つける。3 例えば、「ひとさし指を使う手話は?」「片手で表現できる手話は?」など手話を手の形で分類するといったテーマを提示する。4 テーマに該当する手話を一覧から見つけ、表現する。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・手話集めに際しては、実態に応じて、テーマを子供が考えたり、友達同士で教え合ったり、教師とともに探したりするなど、子供が楽しみながら手話に親しめるよう工夫する。・より多くの手話に触れるため、学校図書館にある手話に関する本を活用して手話集めをするなど、子供の実態に応じて発展的に取り扱う。

※ 手話一覧(別紙1)を大きく拡大してクラスに掲示したり、端末を使って動画をいつでも見られるようにURLをデスクトップに貼っておいたり、子供たちが手話を学びたいときに進んで学ぶことができるような工夫も考えられます。